

# キャンヘルプタイランド

## ネットワーク通信

バンコク便り

2015年4月30日発行 第69号

### バンコク在住の西川会長から

バンコクの街を歩いていて目につくものの一つは「物乞い」です。「物乞い」だけではなく、「募金」や募金に近い形の物品販売など、とにかくお金を集めることが目的の行為が目立ちます。

私の職場はバンコクの中心部、ビジネス街のど真ん中にあるのですが、駅の改札からつづく高架の歩道には様々な人たちが、バンコクでも特に所得水準の高いサラリーマンや OL たちからの浄財を求めて集まってきました。朝夕の時間帯は 10 メートルおきぐらいにそうした人たちが寄付集めに声をあげています。

観光地などではいまも乳飲み子を抱えた母親や、障害者や怪我人が障害を見せつけるようにして物乞いする姿が見られます（片腕をシャツの中に隠して障害者のふりをするような人も昔はいました）が、そういうプロの物乞いにはバックに元締めがついていて、普通に働いている人よりずっと多くの収入を得ていたりすることがタイ人にも知られるようになったためか、私の職場近くではそういう人は最近あまり目にしなくなりました。

多いのが、大学生や高校生グループの募金活動です。支援先の学校の写真などをプラカードに貼って、皆が声を揃えて募金活動を行っています。中には歌を歌ったり、それにふりを付けて踊ったり、太鼓をならしたりするグループもいて、見ていて気持ちがいいです。熱意の感じられないグループもいるにはいるのですが、中高生が制服を着て、一生懸命に声を振り絞っている姿を見ると、協力しようかなという気持ちになってしまいます。実際、支援先の情報などは見ずに歩きながら募金箱にお金を入れていく人が多いのです。

また、ユニセフや動物愛護協会などの組織的な募金活動も盛んです。こういう人たちは首から登録証のようなものをぶら下げてきれいなパンフレットを持って勧誘をしているのですが、声のかけ方が異様に愛想よく、キャッチセールスのようで私は苦手です。周りを見ても目を合わせないようにそそくさとその場を離れていく人が多いように見えます。

その他、クッキーを売っている障害者もいるのですが、信じがたいことに彼らはたいてい首から「私は障害者です」という札をぶら下げています。使えるものは何でもアピール材料にしてしまうというしたたかさを感じてしまいます。募金箱を置くだけでなく、歌を歌う視覚障害者もよく目にします。あとはストリートミュージシャンです。自分の歌を聴いてもらいたいだけの人もいれば、「奨学金をお願いします」というような札を掲げて楽器を弾く人たちも毎日のように目にします。

ある人によれば、「募金」というのはほぼ競争原理にのみによって決まる弱肉強食の「市場」なのだそうです。日本でこの「募金市場」で圧倒的な競争力を持つのが、「こども」「カンボジア」「教育」といったキーワードなのだそうです。同じだけ困っていても大人より子供、アフリカのような遠い所よりもなんとなく目の届きそうなアジア、特にカンボジア、何に使われるかわからないような生活支援よりもより意義のありそうな教育支援に自分のお金を使ってほしいというのが、日本人の寄付行為の特徴なのだそうです。

タイはどうか。私が毎日見ている限りではやはり「こども」の競争力は抜群のようです。今までで一番集金に成功していたのは、「母が癌です。手術にお金が必要です」という紙を掲げてギターを一心不乱に弾いていた少年でした。その真偽は確かめようがないのですが、お札がつぎつぎに投げ込まれていました。あとは、「奨学金のためです」と書いてクラシック楽器を演奏する少年少女たちです。

やはりタイでも「こども」「教育」のパワーは凄い。そんなことを考えていたら、突如、「路上での物乞い行為や演奏などのパフォーマンスを原則禁止する法令を了承した」とのニュースが飛び込んできました。もはやタイの日常に溶け込んでいる感のある物乞いや路上パフォーマンスですが、これからタイの路上の風景がどう変わっているのか注意深く見ていきたいと思います。

西川 弘達

## 総 会

### ～2014 年度総会報告～

4月12日(日)例年通り、名古屋市中村区のNPOステーションにて、キャンヘルプタイランド2014年度総会を開催しました。当日はタイから帰国した会長をはじめ11名の参加者と表決委任者として19名の会員の方々から委任状を頂き正会員総数55名の3分の1以上に達しましたので無事議会成立となり、松本理事を議長とし議案書の項目通りに執り行われました。本年度はNPO法人化についての話し合いも議題として挙がっていたので活発なやり取りが行われる会となりました。議案書に掲載のない会議の詳細を以下に記載させていただきます。



#### ○議事録○

- 1、議長の選出 司会の大矢の推薦により理事の松本が議長に、書記は寺島
- 2、会長挨拶 西川会長があいさつ
- 3、定数確認 正会員数55名 出席者11名 委任状19通

会則の定める定数を満たしているので総会の成立を確認

- 4、第1号議案 2014年度活動報告

議案書の通り各プログラム担当者から報告があり、出席者の拍手をもって承認

- 5、第2号議案 2014年度会計報告

経理担当の伊藤より報告 田中さんからの監査報告、出席者の拍手をもって承認

- 6、第3号議案 2015年度活動計画

#### ➤ランチプログラムについて

当初、7月にワークキャンプを実施するバン・カオティン学校への給食環境整備費として4万Bを支援予定でしたが、現在タイの軍政化に伴い元々軍が整備してきたサツケーオ県には支援が集中することが予想されています。皆様からご寄付頂いた支援金をより有効な支援とするために予算の4万Bについては今後運営委員会にて支援校を再選考していくことになりました。

#### ➤図書支援プログラム(よしふみ文庫)について

ご理解、賛同して頂いた皆様より頂きましたご寄付がお陰様で4月現在において約25万円となっております。書籍及び本棚の寄付として、寄付金総額を1校に集中支援をすることと支援校を2校とし、1校あたり5万B(約15万円)の予算とする案があります。現状、タイの学校では児童数の減少により統廃合する学校も増えてきており1校に対して集中支援した場合よしふみ文庫の継続が困難になるリスクもあります。いずれにしても2～3年の継続した支援及びフォローを行っていく予定ですが、現時点で候補校は数校上がっており支援校を1校にするか2校にするか今後運営委員会にて検討していきます。

➤収益事業・イベントについて

ワークキャンプ合同説明会(淑徳大学)、ワークキャンプ合同説明会(NGO 主催)、ワールドコラボなど、本年度は積極的に参加予定です。

議案書の通り各プログラム担当者より活動計画を提案、ランチプログラムの支援校を変更出席者の拍手をもって承認

7、第4号議案 2015年度予算

予算書の通り伊藤が報告、出席者の拍手をもって承認

8、第5号議案 2015年度運営体制

訃報であります。昨年、新井康義理事が死去されましたため、会長代行・副会長としては大矢治夫理事が指名され兼任として承諾されました。キャンヘルプタイランドをはじめタイとの交流が厚い生前のご活躍を偲びご冥福をお祈り申し上げます。

新井副会長逝去により、大矢会長代行が副会長へ。その他は昨年同様。出席者の拍手をもって承認

9、第6号議案 NPO 法人化

現状運営委員が不足していることもあり、現段階でのNPO法人化については様々な意見がありましたが、6月設立総会・11月法人登録を目標に提携団体FREEと相談しながら各書類を準備し設立に向けて進んでいく方針です。

10、閉会宣言 懇親会

以上、総会の内容を簡単に紹介させて頂きました。

## すみれ基金

### ～2015年度すみれ基金候補学生紹介～

2015年度すみれ基金奨学金の奨学生が決定しましたので紹介いたします。

	シリボン・ブンカオ 女性 シーサケット出身 短大(簿記)	成績優秀。小さい頃から内職をやってきた。家族に負担をかけたくないという理由で短大へ進学。普通に明るい。親の収入不安定。一般的な東北部の家庭
	ワッター・セーンスワン 男性 ナコンパノム出身 短大(簿記)	成績優とても秀。昨年も応募したが落選。その後いろいろアルバイトをやり始めた。性格は普通に明るい。感情豊かで淋しがり屋。
	パッサコーン・ラッタニン 男性 スリン出身 4年制大学(教育)	とても明るく、世話好き。音楽好きで将来の目標がかなりはっきりしている。地域で就職することを強く希望。父親が高齢(65歳)。収入は不安定。
	アンボン・モンタータナクン 女性 ターク(北部)出身 短大(簿記)	7人兄弟の2番目。みんな家から出て外で勉強している。時間があるとアルバイトをして兄弟や親に仕送りしている。もう23歳なのでごく落ち着いている。

すみれ基金奨学金 卒業生への手紙

すみれ基金の久保さんと関本さんが、今年度、すみれ基金奨学生初の卒業生へ向けにお手紙を書いてくださいましたのでここにご紹介いたします。

「すみれ基金」発足から五年が経ち、夢に向かい努力する皆さんの中から初めての卒業生が出ることをとても喜ばしく思います。従妹のすみれの願いを形にして下さったチャムヘル・タイランドとフリーの皆さんに感謝をしています。

御卒業 おめでとうございませう。  
20年以上前に日本で大ヒットして、今も愛されている歌があります。  
私の妹が中学生になり、自分の人生に具体的な夢を持ち始めました。その妹に贈りたいと思っていた歌を皆さんにも贈ります。

～ 夢をあきらめないで～  
 乾いた空に続く坂道  
 後ろ姿が小さくなる  
 優しい言葉 採れないまま  
 冷たい その手を振り続けた

いつか皆 旅立つ  
 それぞれの道を歩いていく

あなたの夢をあきらめないで  
 熱く生きる瞳が好きな物  
 負けないように 悔やまぬように  
 あなたらしく輝いてね

苦しいときには つまずく時も  
 ひとつと上手に 越えていける  
 心配なんて 下としがないで  
 似てる誰かを 愛せるから

切なく残る痛みは  
 繰り返すたびに 薄れていく

あなたが選ぶ 全てのものを  
 遠くにおいて 信じている

クレニアスの言う通りでもありますか。夢をあきらめないで ずっと輝き続けることができますように 遠くから祈っています。

久保とレ子

春らしい気候が感じられておりましたのに 昨日(18日)雷雨の降り、バートで働いているゴルフ場も午後からクローズになりました。

昨年のこの時期 タイの交流キャンプに参加させて頂いて、大のどきと感謝しています。

日本を卒業する数日前にも雷雨の降り、家を出ると日陰は雷雨が降っており、タイに到着後には30度を超える暑さには驚きました。

滞在中はムーさんをはじめ、大塚さんや村本さんがお世話になりました。

タイ北部の小学校の児童や先生方との交流。

70年前、戦後の混乱の中、日本でもっとも貧しく、故郷の生き残りや大変な時代がありました。

当時20才だった叔母は、医師と志すおじいさんが、姉と兄弟が多く、経済的な負担は重く感じました。おじいさん、奨学金制度の交換を受け、医師となり、叔母は夢を實現させました。

おじいさんは婦人科医として働き、晩年は保健所の所長として地域の医療に貢献しました。

おじいさんの夢を見てきたおじいさん、遺言でおじいさんのための慈善団体に寄付してほしいと、おじいさん従妹に託して、彼女は6年前、おじいさんの夢を託して、おじいさんの「すみれ基金」設立のきっかけとなりました。

この基金には叔母や一人様(関本さん)の遠くからもお名前があることでした。

基金には限りがありますので、一人で多くのタイの若者の夢を實現するのを願っています。

dreams come true  
 関本とレ子

## 報告

### ～ムさんを囲む会～

3月22日事務所にて、提携団体 Free としても現地タイと日本をまたいで通年キャンヘルプタイランドに協力していただいているムさんが来日されたため、歓迎会が開かれました。設立当初から活動に参加されていた方や10年前にワークキャンプに参加された方々など様々なキャン愛・ムさん愛のある方々が20人程集まりました。日本では春眠暁を覚えずの暖かな春が訪れたばかりでしたが、ムさんによるとタイは夏期にあたり夏真っ盛りとのことで、皆で面白い昔話に花を咲かせました。昔、ワークキャンプに参加された方のお子さんや支援施設であるカサロンの家に短期滞在したお子さんも参加して、賑やかな楽しい会になりました。ムさんに久しぶりに逢いたいと沢山の人が集まったこの会を通して、キャンヘルプタイランドは人と人が時や年齢を越えて繋がっている魅力のある活動であると感じました。最後に記念撮影を1枚。ムさんにとっても感動したと喜んで頂けて大満足の会でした。



(中央左側がムさん)

## 旅行記

### ～思いつきでタイ旅行～

20代の頃は、よくバックパッカーついでにタイを放浪しましたが、結婚後はなかなか気楽に旅行できる環境ではなくなってしまいました。家族のこと、仕事のこと、バックパックより重たいものがたくさん肩にのしかかっている状況です。まあ、当たり前といえば当たり前ですが・・・。

そんな環境下でも、何かと理由を付けワークキャンプなどには参加し、2年に1度くらいは訪タイを続けていました。ほとんど病気ですが、タイはそういう魅力的な国なのです。

今年の3月に、その病気が再発しました。前回の訪タイは2年前の3月。潜伏期間2年での発症ですが、今回は症状が少し重すぎました。というか、出雲大社と伊勢神宮の式年遷宮が揃うのと同じくらい、諸々のタイミングがすべて良い方向に揃ってしまい、天に向かって「いつ行くの?」と問うたなら、「今でしょ。」と八百万の神が即答するくらいです。(僕の個人的な感想です。)

という訳で、出発3日前にインターネットで航空券を手配し、3月25日の夕方、タイ航空で一路バンコクを目指しました。久しぶりにバックパックを担ぎ、無計画の行き当たりばったり旅行で気分は深夜特急の沢木光太郎やユーラシア大陸横断ヒッチハイクの猿岩石ですが、20代のようなサバイバル旅行ができるかどうか正直少し心配でした。

今回、往路に利用したのは深夜便だったのですが、座席はガラガラでひじ掛けをあげて横になれるくらいでした。ビジネスクラスよりも快適な6時間の移動となりました。夜11時にバンコク到着ということで、昔のバックパッカーならそのまま空港のベンチで夜が明けるまで待つのが常識でしたが、最近はメールやFacebookといったインターネットを利用した便利なコミュニケーションツールがあり、出発の前日にタイの友人に連絡すると、深夜にも関わらず迎えに来てくれるとのこと、その日はそのまま友人宅へ宿泊。快適快適!



2 日目は、友人の卒論提出に付き合うためバンコク市内の大学へ移動。BTS で市内まで行きましたが、僕が初めてバンコクを訪れた 20 年前には BTS も地下鉄もなかったので、市内の移動はもっぱらバスかトゥクトゥクでした。現在のバンコクに住む学生にとっては当たり前ですが、エアコンの効いた列車で渋滞も関係なく移動できるなんて夢のようです。大学での用事を早々に済ませ、昼食はデパートのフードコートで食べました。昔のバンコクっ子なら道路脇にある屋台で食べるのが定番でしたが、現在はおしゃれなデパートのエアコンの効いたフードコートでの昼食が当たり前になってしまいました。もちろん料金も倍近くになっています。その後、チェンライ行きの夜行バスに乗る支度をするために友人のアパートへ戻り、シャワーを浴びて着替えをし、バスターミナルへ移動しました。バンコクーチェンライの移動は 11 時間のバス旅です。1,000 バーツ弱の V.I.P.バスの席を確保したので、車内にはトイレ完備、座席にはマッサージ機能付き、スナックやドリンクのサービスもあります。昔なら 3 等列車での移動だったでしょうが、今は体力がもちません。2,000 バーツ出せば飛行機も選べる時代です。お金はないけど時間は十分にあります。

早朝 6 時にチェンライに到着。希望の家のタッサニーさんと合流し、この日は 1 日チェンライ観光。大きな観光茶畑やナイトバザールなどを観て、夜はチェンライにあるメーファールアン大学のゲストハウスに宿泊しました。無計画に出発した今回の旅行でしたが、ここまで何の問題もなく順調に進んでいます。今までコツコツと築いてきたタイでの人脈がとてもうまく機能し、サバイバルとはかけ離れた、とても快適な旅行となっています。

4 日目はミャンマーへ行ってきました。タイの最北の町メーサイからミャンマーのタチレクへ入り、タチレク郊外にあるアカ族の村を訪問しました。正直な感想は、当たり前と言えばその通りですが、タイのアカ族もミャンマーのアカ族も全く同じで、村の様子や生活習慣など何一つ変わりません。山岳部に住む少数民族の現状やその人たちが抱える問題はタイでもミャンマーで共通でした。

5 日目は午前中に飛行機でバンコクへ戻り FREE のムさんのお宅へお邪魔しました。ムさんとは 3 月 22 日に日本で会っていたのでちょうど 1 週間ぶりの再会です。今回の旅には、ムさんのおばさんに「干し柿」を渡すという重要なミッションもありましたが、無事にクリアすることができました。午後はバンコクで開催されていたバンコクモーターショーを覗いてきました。日本では若者の車離れが進み新車の販売不振が叫ばれていますが、バンコクモーターショーの人気はすごく、このところ景気のいいタイの実態を垣間見ることができた気がします。

6 日目の朝 6 時、サケーオ県へ向け出発します。バンコク市内での渋滞を避けるため、早朝にムさんの運転する車で高速道路を走ります。今回の旅の最大の目的「夏のワークキャンプ実施校の視察」達成の為、東へ東へ向かいます。途中、大きなガソリンスタンドで朝食を食べ、お昼前に 2002 年に図書館建設を行ったバンサイトーン学校に到着しました。事前に連絡を入れていないアポなし訪問でしたが、昔から変わらない先生方が暖かく迎えてくれ、急に視察した図書館もとてもきれいに使用されていました。



この学校の校庭には気持ちいい木陰を作ってくれる大木が沢山あったのですが、大きくなりすぎ枝の落下などの危険性があるために伐採されてしまっていたことがとても残念でした。先生方と昼食を食べ、午後から夏のワークキャンプを実施するバンカオディン学校へ行きました。あいにく校長先生が不在でしたので、戻ってこられるまで学校周辺の村を観て回りました。村の歴史は浅く 30 年前に軍隊の管理のもと道路が整備され、土地、建物、農地をセットで無償提供された人々が住みついた村でした。当時、電気水道はなかった

そうですが、現在は整っています。カンボジアとの国境まで1キロほどしか離れていないので、各家庭に防空壕もあるそうです。村の敷地面積は広いですし、民家と民家の距離が離れているため少しさみしい感じがする村ですが、村民は広大な農地でキャッサバやサトウキビなどを栽培し、比較的安定した生活を送っているようでした。農地がやせているプリラム県やスリン県とは違って、ここでは作物が安定して収穫できるし、カンボジアから安い労働力の供給もあるので、村内には豪邸も数件あります。昔は村の近くにも地雷原がありましたが、現在はすべて撤去されているとのことでした。村を一回りした後、学校へ戻って校長先生と挨拶をして、ワークキャンプについて打ち合わせを行いました。校長先生はすごく協力的な方で日本人の滞在をととても楽しみにしているようでした。その日は学校内にある先生用の寮に泊まらせていただきました。

翌朝、学校から1キロほど離れた国境市場へ視察に行きました。タイからカンボジアへ行く物とカンボジアからタイへ来る物がごっちゃ混ぜになった市場で、すごく活気があります。今回のワークキャンプの見どころの一つになるのは間違いなしです。日本では味わうことのできない国境の雰囲気肌で感じられます。「その橋の向こう側は言葉の違う異国」という感覚はとてもワクワクします。この市場ではカンボジアの子どもたちが荷役の仕事をしています。本来なら学校へ通っていないといけない年齢の子どもたちが、カンボジアからリヤカー満載の野菜を運んできたり、タイからカンボジアへ衣類を運んだりしていました。カンボジア側の学校の状況もぜひ見てみたいと思いました。昼前にバンカオディン学校を離れ、2002年に教室棟を支援したバンノンサメッド学校へも立ち寄ってきました。この学校は「よしふみ文庫」の支援予定校ですが、学校には内緒で図書館の様子などを視察してきました。（「よしふみ文庫」については次回のネットワーク通信で詳しくお伝えできると思います。）その後、いろいろ寄り道をしながら夜10時過ぎにムさんの自宅へ到着。就寝。



最終日午前中、キャン奨学金OGで現在はバンコクの大学で広報の仕事をしている友人に会いに行きました。2002年のサケオ県でのワークキャンプでお手伝いをしてくれたルーイ県出身の彼女は、キャンの奨学金をもらいながら勉強し、バンコクで仕事を見つけてからも最近までムさんの仕事を手伝ってくれていたそうです。偶然にもその子の働いている大学は、僕が旅行初日に友人の卒論提出に付き合っ訪問した大学と同じでした。3月26日にも来ていた大学にもう一度来てしまいました。なぜかタイではこういう偶然が沢山起るんですね。不思議な国です。彼女の事務室でしばらく昔話をした後は、キャンヘルプタイランドの西川会長と食事をしました。会長オススメの安くておいしいシーフードレストランでしたが、庶民的でおいしかったです。もう1ランク上のシーフードレストランもあるそうですので、次回はそちらをお願いしたいものです。もちろん会長のおごりで…。その後はタクシーで空港へ向かう予定でしたが乗車拒否に合い、重い荷物を担いでエアポートリンクという空港直通的列車を使いスワンナプーム空港へ戻りました。そして、深夜0時の飛行機で無事に名古屋まで帰ってきました。

今回も、タイの方々にご迷惑掛けまくりの行き当たりばったり旅行でしたが、観光ではない、人に会いに行く旅行がとても好きです。歴史のある世界遺産もいいですが、10年ぶりに会う友人の方が感動します。キャンの活動に係わって20年が経ちましたが、そんな友人がタイに沢山きたことが僕の財産となりました。もちろん日本国内にも。そういえば、キャンの総会の日にな古屋駅で偶然キャン関係の古い友人に会いました。10年ぶりくらいだったかな。

## 参加者募集

### ～2015年夏ワークキャンプ参加者募集～

2015年夏、建設キャンプが復活します。タイ東部のサケート州の学校で図書館建設を行います。現地の学校に寝泊まりしながら図書館の建設作業を手伝います。簡単な作業ですのでどなたでもご参加いただけます。普通の観光旅行や見学だけのスタディーツアーに物足りなさを感じている方はぜひキャンヘルプタイランドのワークキャンプを体験してください。きっと満足いただけると思います。

興味のある方は、事務局までご連絡いただければ詳しい資料をお送りいたします。久しぶりのワークキャンプなので、ぜひご参加ください。

日 時：7月26日（日）～8月6日（木） 12日間

場 所：サケート州バンカオディン学校

費 用：43,000円（航空券別）参加費にはキャンヘルプタイランドの会費1年分を含みます。

※ 部分参加も可能ですのでご相談ください。

## 訃報

ネットワーク通信第68号69号の2号連続で訃報をお伝えしなければなりません。

キャンヘルプタイランド創設当時より副会長として尽力くださった茨城県の新井康義さんが、今年の1月に逝去されました。ここに心よりご冥福をお祈り申し上げます。 キャンヘルプタイランドスタッフ一同

## 運営委員会

(2015年2月～4月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	2月	事務局	総会準備 ワークキャンプについて
運営委員会	3月	事務局	奨学金授与式 ワークキャンプについて
総会	4月12日	事務所	2014年度総会
運営委員会	4月	事務所	NPO法人化について。WC合同説明会について

### 運営委員募集中！

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

### 編集後記

夏のワークキャンプを実施するサケート州のバンカオディン学校と周辺の村を視察してきました。カンボジアとの国境沿いにある小さな村ですが、30年前に軍隊が整備した村なので、他のイサーン地方の村とは雰囲気がまるで違う感じでした。家と家との間隔に距離が取ってあるのはミサイル攻撃の被害を小さくするためなのでしょう。 たった30年前のことです。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.69>

発行 キャンヘルプタイランド

発行人 西川 弘達

編集人 坂 茂樹

発行日 2015年4月30日

住 所 〒450-0003

名古屋市千代田区名駅南2-11-43

NPOステーション内

Tel & fax 052-566-5131

(OPEN: 土曜の13～16時頃)

E-mail: canhelp@npo-jp.net

ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>